

# 令和2年度 研究のまとめ

学校名：尾道市立栗原中学校
学校規模： 12学級 345名 (R2. 3月現在で記入)
研究教科・領域： 全教科

## 1 研究の概要

### (1) 研究テーマ・サブテーマ

思考力・判断力・表現力の育成  
 ～「チーム栗原」で  
 主体性と規範意識を育成する指導の工夫～

### (2) 研究のねらい

#### ① 研究のねらい

「課題発見・解決学習」を取り入れた単元開発や、生徒全員が能動的に参加できる授業改善を通して、生徒の主体的な学びを促し、思考力・判断力・表現力を育成する。

#### ② 研究テーマの定義（本校における「 」とは）

本校における「思考力・判断力・表現力」とは、各教科の目標達成のために生徒が自ら既習の知識・技能を用いて課題を解決する過程で活用する能力のことである。

#### ③ サブテーマの定義（本校における「 」とは）

本校における「主体性」とは、学習者が「課題発見・解決学習」など全ての学習活動に能動的に参加し、自らが主体となって基礎的な知識・技能を活用しながら自ら思考・判断し、言語等を使った表現をする学習活動である。

### (3) 研究反説

全教職員が、生徒全員が規律に則って能動的に授業に参加できる環境の中で、課題発見・解決学習に主体的に取り組ませる指導を行えば、生徒の思考力・判断力・表現力を向上させられるであろう。

### (4) 研究内容（研究の方向）

- ①思考力・判断力・表現力の育成  
主体的な学びを促す「課題発見・解決学習」を取り入れた単元開発と実施
- ②生徒の能動的な授業参加を通じた主体性の育成  
めあてと振り返りを明確にし、達成感を持たせる授業改善  
生徒の自己肯定感や意欲を育てる授業改善
- ③規範意識を育成する学習の基盤づくり  
授業ルール等の学習規律の徹底と、教科の独自性を生かしたルーティーンづくり  
教室掲示など学習環境の整備
- ④知識・技能の確実な定着  
付けたい力を明確にし、教員と生徒で共有するための授業のめあての設定

### (5) 検証の指標

- ①記述式問題における無答率とB判定以上の生徒の割合
- ②意識調査（主体的な学び、自己肯定感）
- ③確認テストにおける得点率30%未満の生徒の割合

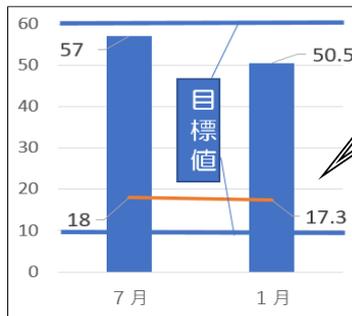
### (6) 到達目標

- ①記述式問題でのB判定60%以上・無答率10%以下
- ②生徒意識調査において、「主体的な学び」肯定的回答80%以上、「自己肯定感」肯定的回答70%以上
- ③確認テストにおける得点率30%未満の生徒の割合が1月時点で、7月時点と比較して10ポイント減少

## 2 研究の成果と課題等

### (1) 検証結果

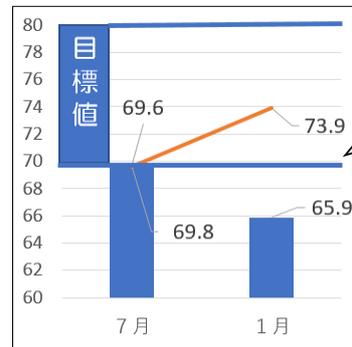
#### ①記述式問題における無答率とB判定以上の生徒の割合



1月の無答率は17.3%、B判定以上は50.5%と、両方とも目標値は達成できなかった。

調査日時  
令和2年7月  
令和3年1月  
調査対象  
第3学年

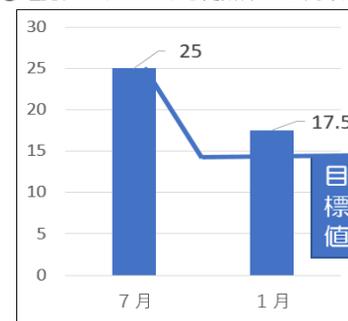
#### ②主体的な学び・自己肯定感に関するアンケートの肯定的回答



1月は、主体的な学び65.9%で目標達成できず、自己肯定感は73.9%で目標達成できた。

調査日時  
令和2年7月  
令和3年1月  
調査対象  
全学年

#### ③確認テストにおける得点率30%未満の生徒の割合



目標であった10ポイント減は達成できなかったが、7月に比べ、1月の方が生徒の割合は減少している。

調査日時  
令和2年7月  
令和3年1月  
調査対象  
第3学年

### (2) 成果

- ①主体的な学びに向けて1人1研究授業の取り組みを行った。
- ②生徒の自己肯定感は毎年増加傾向にあり、3年間の取組効果を見せている。
- ③200字以内の作文問題における無答率は0であるなど、個別の問題では成果が上がっているものもある。

### (3) 課題

- ①思考力・判断力・表現力の育成が十分でない。
- ②知識・技能の確実な定着のため、さらなる底上げが必要である。
- ③主体的な学びのうち、「静観収集」の肯定的評価が低い。

### (4) 改善の方向性

- ①生徒自身が自らの達成度を確認できるような取り組みは必要である。
- ②ICTの活用を、目的ではなく学力向上の手段としていけるよう、授業改善を進めていく。